

ご挨拶

このたびは再びご信任いただきまして、ありがとうございます。
もとより浅学菲才、微力ではありますが、全力で務めてまいります。

さて、政府の積極的な経済刺激策の効果がなかなか実感できない地域の中小企業の現場ではありますが、誰かが何かをしてくれるという幻想は捨て、自助努力をしていくしかないと感じます。そのためにも、地域の暮らしを下支えする地域経済の担い手である 3,400 の会員企業の経営の活発化に資することこそ、わが小田原箱根商工会議所の責務であると改めて強く感じております。

言うまでもなく、商工会議所の最大かつ最重要な責務は、会員企業の商売繁盛のお手伝いです。各種相談、専門家派遣、セミナーの開催等、会員企業の皆様方の経営支援に当所を挙げて取り組んでおります。会員の皆さんにとってもっと分かりやすく使いやすくなるように引き続き改善を図ってまいります。

昨年の箱根大涌谷の火山の活発化により、箱根はもとより小田原の経済も大きな影響を受けました。観光を中心に箱根と小田原はまさに一体の経済圏を構成しているという現実を体感しました。その学びを活かし「小田原箱根の観光ビジョン」として 44 項目にわたる提言をまとめました。そして今、このビジョンの実現に向かって具体的に動きはじめました。来る 11 月 29 日の創立 70 周年記念式典の中で開催します「観光フォーラム」もその一環であります。

「議論して、行動して、結果を問う」を標榜する当会議所では、部会、特別委員会、そして、タスクフォースにおける活発な議論から積極的な提案と具体的な事業が生まれています。先述の「観光フォーラム」で発表いたしますお城を中心としたまちづくりの夢プランである「平成の城下町・宿場町構想」もその成果のひとつです。具体の絵を前にして、活発な議論が広がることを期待しております。また、もうひとつの事例として「第 3 創業市・創業塾とビジネスプランコンテスト」からは実際に 5 社の創業が実現しましたことを報告いたします。今年度は地方創生の交付金を有効活用しながら、さらにバージョンアップして展開しております。

青年部が中心になり、その新しい発想で企画、運営した産業まつり「小田原箱根大博覧会」はまさに小田原・箱根が一体となった事業の好例だと思っております。このようなまちを元気にするための活動も展開しております。

行政・自治会と連携した防災対策、小田原の中心市街地の活性化、大手工場跡地の利活用、地方創生の切り札になりえる地域でのエネルギー事業、会議所会館の更新など山積する課題に果敢に丁寧に取り組んでまいります。

地球温暖化や天然資源などの環境制約と、人口構造の激変、特に生産人口の減少と高齢化という未曾有の社会環境の中で、持続可能な経済とはどうあるべきか、真の豊かさとは何か

が問われています。従来型の単なる量的な成長戦略を超えた、地域での経済循環を重視した持続可能な地域経済のあるべき姿を地元経済団体としてしっかりと描いてまいりたいと思っております。

会員の皆さまには会議所活動の積極的なご活用とご参画をお願い申し上げます。皆さまの商売繁盛とご健勝を心から祈念いたしつつ、就任のご挨拶とさせていただきます。

小田原箱根商工会議所会頭 鈴木悌介。